

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地			
麻生外語観光&プライダル専門学校		平成3年1月8日	瀧口 博俊	〒 812-0016 (住所) 福岡市博多区博多駅南1-14-17 (電話) 092-415-2293			
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人麻生塾		昭和26年3月12日	理事長 麻生 健	〒 820-0018 (住所) 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	文化教養専門課程	海外ビジネス科	平成21(2009)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的	英語、第2外国語、高度なITスキルを習得し、国内外を問わずグローバルなフィールドで活躍するビジネスパーソンを育成する。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能な検定:実用英語技能検定試験2級、TOEIC L&R(IP)500点以上 学修意欲低下、進路変更や経済的な理由などにより中退者が発生しており、中退率は10%となっている。						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	※単位時間、単位いずれかに記入 1,755 単位時間 単位	1,260 単位時間 単位	1,365 単位時間 単位	40 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)				
80人	22人	2人	9%				
就職等の状況	■卒業者数(C)		32	人			
	■就職希望者数(D)		27	人			
	■就職者数(E)		27	人			
	■地元就職者数(F)		12	人			
	■就職率(E/D)		100	%			
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		44	%			
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		84	%			
	■進学者数		0	人			
	■その他						
	留学生の帰国者: 2人 アルバイト: 1人 就職斡旋希望せず: 2人		希望する業界(企業)と個々の適正を見定め、指導、助言を与える。 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)				
■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 物流、貨物、ホテル、一般企業 等							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無				
当該学科のホームページURL	https://asojuku.ac.jp/aftc/business/						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)						
	総授業時数						2,665 単位時間
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数						0 単位時間
	うち企業等と連携した演習の授業時数						105 単位時間
	うち必修授業時数						1,185 単位時間
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数						0 単位時間
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数						105 単位時間
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)						0 単位時間
	(B: 単位数による算定)						
	総授業時数						単位
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数						単位
	うち企業等と連携した演習の授業時数						単位
	うち必修授業時数						単位
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数						単位
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数						単位
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)						単位
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)				1人
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)				0人
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0人
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0人
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0人
	計					1人	
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					1人		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業連携の下、専攻分野における実務に関する知識、技術および技能を教授し、就職に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを基本方針とする。グローバルなビジネスシーンにおいて即戦力となり得る人材育成のための、より実践的な職業教育の質の確保を目的とし、企業との密接な連携による最新の実務を的確に反映した教育を提供する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、専門性に関する動向や方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保する

ことを目的とする。委員会は、次の事項を審議し、会議の結果を学科内でのカリキュラム会議に報告する。

①カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項

②各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項

③教科書・教材の選定に関する事項

④その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

また、カリキュラム会議においては、教育課程編成委員会からの意見を参考に、学科の教育方針に則ったカリキュラムを検討し、策定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
松坂 寛則	九州マレーシア協会 事務局長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	①
柳原 久一郎	株式会社ブライトウェイ	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
金澤 浩樹	日本通運株式会社 福岡支店 課長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
和田 菜穂	麻生外語観光&ブライダル専門学校 主任	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
秋本 佐代子	麻生外語観光&ブライダル専門学校 海外ビジネス科教員	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年6月15日 16:30～17:00

第2回 令和4年10月12日 15:30～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員からの「ネットワーク技術とオンライン会議ツールを活用した実務スキルを習得する重要性が高まっている」との意見を受け、企業連携科目であるプロジェクトベースドラーニングのシラバスを改訂し、実践的なオンライン会議の演習やビデオプレゼンテーションのトレーニングができるような内容とした。さらには、ITの基本的なコンセプト習得のためオンライン技術に関する専門家のアドバイスをもらい、新科目として「ITパスポート」を導入、ネットワーキングの基礎やITセキュリティに関する理解を深めることを可能とした。なお、IT技術領域は急速に進化していることから変化に対応できるカリキュラムの柔軟性が求められるため、常日頃から市場トレンドや業界ニーズを把握するための情報収集を実施することを確認した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業連携の下、専攻分野における実務に関する知識、技術および技能を教授し、就職に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを基本方針とする。グローバルなビジネスシーンにおいて即戦力となり得る人材育成のための、より実践的な職業教育の質の確保を目的とし、企業との密接な連携による最新の実務を的確に反映した教育を提供する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業と学校による教育委託契約書により、企業が選任した講師による演習を実施する。教育カリキュラムの設定並びに変更にあたっては企業と学校とで事前に協議を行い決定する。評価は筆記試験、レポート課題提出状況や内容を踏まえた総合評価とするが、評価基準については事前協議の上で設定する。

【授業科目】 マーケティング

【授業開設の目的】 グローバル社会におけるビジネスを理解し、トレンドの把握、顧客ニーズの解明、顧客価値を生み出すための経営哲学、戦略、仕組み、プロセスを学ぶことで、国際社会に対応する人材の育成を目指す

【授業科目】 プロジェクトベースドラーニング

【授業開設の目的】 学習を能動的なものと規定し知識の暗記にみられる受動的なものを脱却するために、自ら課題を発見し解決していく能力を醸成

【授業科目】 Intensive English Learning Program

【授業開設の目的】 語学力向上と共に海外での生活、文化を経験することで、広い視野と複眼的な価値観を醸成

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
マーケティング	身近な分野の問題や改善点を捉えながら、外国人に接するエアラインやホテルの取り組みを参考に、マーケティング手法やツールを認識しながらワークショップを通して感覚を磨く。	株式会社ブライトウェイ
プロジェクトベースドラーニング	ホテルや航空会社における実務例をベースに、現在のトレンドを踏まえてグループワークでプロジェクトを立ち上げ、内容のプレゼンテーションを行う。	株式会社ブライトウェイ
Intensive English Learning Program	セブ島Global Language Cebuにおいて、マンツーマン授業など集中的な英語学習プログラムに参加し、語学力を向上させると共に、異文化理解を深め多様性を受け入れることができるようになる。	株式会社ジージー

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 教職員に対して、現在就いている職務又は将来就くことが予想される、職務の遂行に必要な知識・技能を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的として研修を受講させる。「教職員研修規程」に則り、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。年度の初めに研修計画を作成し、各教職員のスキルに適した研修が、計画的に受講できるようにする。また必要に応じ、年初の計画以外の研修受講も可能としている。		
(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: 授業でディベート、どう指導する?	連携企業等: 株式会社アルク	対象: 教員(和田 菜穂)
期間: 2022年6月26日(日)13:30~16:00		
内容: ディベートの効果と課題~ケーススタディと実践		
研修名: 本当に効果的な語彙学習と、指導者として出来ること	連携企業等: 株式会社アルク	対象: 教員(和田 菜穂)
期間: 2022年10月22日(土) 13:30~15:00		
内容: 「単語の学習」と「定型表現」を習得する方法と理論		
研修名: 5ラウンドシステムの英語授業を実施するとしたら	連携企業等: 株式会社アルク	対象: 教員(和田 菜穂)
期間: 2022年11月27日(日) 13:30~16:00		
内容: 1年間に教科書を5回繰り返すという画期的な授業方法の実践事例紹介と情報交換		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: ルーブリック評価と能動的な継続学習	連携企業等: デジタルハリウッド株式会社	対象: 教員(岡本 彩)
期間: 2022年9月1日(木)15:30~17:00		
内容: 学修成果の可視化に有効な評価指標「ルーブリック」の授業タイプ別の作成方法、個別対応ツールとしての「振り返りシート」の活用方法について学ぶ。		
研修名: 自治体の先進事例に学ぶ「リスクリング」	連携企業等: 株式会社進研アド	対象: 教員(和田 菜穂)
期間: 2023年2月8日(水)13:00~16:25		
内容: 行政職員のリスク・地域企業のDX人材育成の取り組み		
研修名: 授業におけるファシリテーション研修 対面授業編	連携企業等: 株式会社ONDO	対象: 教員(和田 菜穂)
期間: 2023年3月15日(水)13:30~15:30		
内容: ファシリテーションの場面設定、上手な意見のまとめ方、対面授業時のファシリテーションのポイントについて学ぶ。		
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: 未来の高校英語カリキュラム『ミラカリ』	連携企業等: 株式会社アルク	対象: 教員(和田 菜穂)
期間: 2023年5月28日(日) 13:30~16:00		
内容: 英語を使う機会を最大限確保するための授業モデルの提案と実践事例紹介		
研修名: JTBリスクマネジメントセミナー 2023	連携企業等: 株式会社JTB	対象: 教員(和田 菜穂)
期間: 2023年9月6日(水)15:00~16:15		
内容: 海外留学・研修におけるリスク管理と安全対策		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: DX時代に求められる担任力	連携企業等: 株式会社FCEエデュケーション	対象: 教員(和田 菜穂)
期間: 2023年6月30日 16:10~17:00		
内容: 持続可能な生徒指導への転換生徒とのコミュニケーションを図る~デジタルツールを活用した実践例		
研修名: 2024年度入学生に求められる学生指導とは	連携企業等: 株式会社進研アド	対象: 教員(和田 菜穂)
期間: 2023年7月21日(金)16:00~17:00		
内容: 入学者数減少と学力低下が専門学校教育に及ぼす影響~効果的な指導と中退予防		
研修名: 変化する社会に求められる人材の傾向と分析	連携企業等: 株式会社進研アド	対象: 教員(和田 菜穂)
期間: 2023年9月21日(木)16:00~17:00		
内容: 企業の採用経験者が示す学校教育の強化ポイントとは		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者等、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりを行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育人人材像、他
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、人事・給与規程、業務効率化、他
(3) 教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、他
(4) 学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他
(5) 学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他
(6) 教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7) 学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8) 財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、他
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他
(11) 国際交流	留学生の受入れ、支援体制

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

「現行設置科目の教授法やシラバスは常に改善されているが、ほとんどが対面での授業を前提としている。コロナ対策で始まったオンライン授業は、教育のDX化に伴い新しいスタイルの授業をデザインできるスキルを高めていく必要がある。」との意見を受け、必要なスキル習得のため研修参加を積極的に行った。さらには麻生塾独自のプラットフォームとしてLMS「Teachare(教える(Teach)と共有する(Share)を組み合わせた造語)」を採用、授業における実装を目指し、現在教員の勉強会を実施している。しかし科目によるデジタル格差は否めず、教育の質の担保を目指し改善活動が必要であるため今後も継続してスキルアップに努めていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
大塚 加代	保護者等	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	保護者等
高島 妙美	卒業生	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
浦川 美代子	博多駅南1丁目1区 自治会長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	地域住民
篠崎 博	福岡県立嘉穂東高等学校 学校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高等学校関係者
柳原 久一郎	株式会社ブライトウェイ	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
今林 麻美	ANA福岡空港株式会社 旅客サービス部_旅客サービス3課 マネジャー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
倉智 和樹	ANA福岡空港株式会社 貨物・グランドサービス部 貨物郵便課 マネジャー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
伊賀上 恵子	公益財団法人 福岡観光コンベンションビューロー 事務局長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/aftc/2023/hyoka.pdf>

公表時期: 令和5年9月29日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念、教育目標、ASOの考え方
(2) 各学科等の教育	入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、カリキュラム、資格実績、就職実績
(3) 教職員	教員一覧及び実務家教員科目
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、学園祭、部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6) 学生の生活支援	生活環境サポート、留学生キャンパスライフ、留学生ASOの就職サポート
(7) 学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援(各種支援制度)
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書
(9) 学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	留学生入学案内、留学生学べる分野、グローバル教育、海外での大学教育
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.asoiuku.ac.jp/aftc/>

公表時期: 令和5年7月31日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 海外ビジネス科) 令和4年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			Speaking Skills IA	レベル別クラスで日常生活に必要な英会話力を養成する	1前	60		△	○		○		○	○	
2	○			Speaking Skills IB	レベル別クラスで日常生活に必要な英会話力を養成する。前期の学習を踏まえ、英会話力の向上を目指す	1後	60		△	○		○		○	○	
3	○			English Recitation	レベル別に英語の課題文を暗記し、人前で発表するプロセスの中で、語彙、フレーズの習得、表現力の向上を目指す	1後	30		△	○		○		○	○	
4	○			Intensive English Learning Program	GLCによるオンラインマンツーマンレッスンやグループレッスンを通して、英語脳を開発し語学力を向上させる	1後	60		△	○			○	○	○	○
5		○		英語検定(TOEIC)対策IA *A	レベル別クラスにてTOEICの高スコア取得のための対策授業を行う	1前	90		○	△		○		○		
6		○		英語検定(2級)対策IA *A	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主催実用英語技能検定」の2級取得のための対策授業を行う	1前	90		○	△		○		○		
7		○		英語検定(準2級)対策IA *A	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主催実用英語技能検定」の準2級取得のための対策授業を行う	1前	90		○	△		○		○		
8		○		英語検定(TOEIC)対策IB *B	レベル別クラスにてTOEICの高スコア取得のための対策授業を行う	1後	90		○	△		○		○		
9		○		英語検定(2級)対策IB *B	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主催実用英語技能検定」の2級取得のための対策授業を行う	1後	90		○	△		○		○		
10		○		英語検定(準2級)対策IB *B	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主催実用英語技能検定」の準2級取得のための対策授業を行う	1後	90		○	△		○		○		
11	○			総合英語IA	レベルごとに基礎英文法の習得、英語で「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の基礎力を養成する	1前	60		○	△		○		○	○	

(文化教養専門課程 海外ビジネス科) 令和4年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
12	○			総合英語ⅠB	前期の学習内容をもとに、さらに高等な英文法の習得、読解、聴解、英会話の実践練習を行い、総合的な英語力を養成する	1後	60		○	△		○		○	○	
13		○		韓国語基礎A *C	ハングル文字を学ぶことから始め、韓国語の基礎を学び、簡単な日常会話レベルの韓国語習得を目指す	1前	30		△	○		○			○	
14		○		中国語基礎A *C	音調の学習から始め、中国語の基礎を学び、簡単な日常会話レベルの中国語習得を目指す	1前	30		△	○		○			○	
15		○		韓国語基礎B *D	前期の学習を発展させ、より多くの日常会話フレーズを学び、より自然な韓国語会話の習得を目指す	1後	30		△	○		○			○	
16		○		中国語基礎B *D	前期の学習を発展させ、より多くの日常会話フレーズを学び、より自然な中国語会話の習得を目指す	1後	30		△	○		○			○	
17	○			MOS演習ⅠA	「Microsoft Office Specialist Excel」の取得を目指す	1前	60		△	○		○			○	
18	○			MOS演習ⅠB	「Microsoft Office Specialist Power Point」の取得を目指す	1後	60		△	○		○			○	
19		○		インバウンド概論 *E	21世紀の国際観光産業について、訪日外国人観光客をめぐる最近の動きや外国人から見た日本の観光資源についての概要を掴み、アメリカ系ホテルビジネスや外資系航空会社の日本戦略についても学ぶ。また、外国人から見た九州観光の魅力について調査し、プレゼンテーションを行う。	1前	30		△	○		○			○	
20		○		観光業界概論 *E	ホテル、トラベル、航空の各業界の現状ならびに各業界にどのような業務があるのかについて学ぶ。	1後	30		△	○		○			○	
21		○		サービス接遇 *E	「サービス接遇検定2級」の合格を目指すとともに、接客マナーについての知識を修得する。	1前	60		○			○		○		
22		○		商業簿記A *F	「日本商工会議所主催簿記能力検定」の3級合格へ向けての基礎段階として、簿記に関する基礎を学ぶ。	1前	60		△	○		○			○	

(文化教養専門課程 海外ビジネス科) 令和4年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
23	○		商業簿記B *F	商業簿記Aに引き続き、「日本商工会議所主催簿記能力検定」の3級合格へ向けての基礎段階として、簿記に関する基礎を学ぶ。	1後	60		△	○		○			○	
24	○		SPI A	就職試験で実施されるSPIの中でも特に非言語分野の理解度を高め、受験に対応できる能力を身につける。	1前	30		○			○		○	○	
25	○		SPI B	就職試験で実施されるSPIの中でも特に非言語分野の理解度を高め、受験に対応できる能力を身につける。	1後	30		○			○		○	○	
26	○		GCB I	様々な事例について話し合うことにより、「感謝と思いやり」を学ぶ	1前	15		△	○		○		○		
27	○		社会教養 I A	就職に対する基礎知識、履歴書作成、面接練習など、就職内定へ向けての実践授業	1前	15		△	○		○		○		
28	○		社会教養 I B	社会教養 I Aに続き、就職に対する基礎知識、履歴書作成、面接練習など、就職内定へ向けての実践授業	1後	30		△	○		○		○		
29	○		就職実務	履歴書やESの作成から、実際の就職試験を想定して、面接対策などを行う	1後	15		△	○		○		○		
30		○	企業インターンシップ	旅行会社、ホテル、ブライダルなど、各業界にてインターンシップを体験することで、職種を理解し、自分に足りないものに気づく	1後	40				○		○	○	○	
31	○		Speaking Skills II A	レベル別クラスでよりスムーズな日常英会話の運用ならびに多岐にわたる場面での英会話力の養成を目指す	2前	60		△	○		○		○	○	
32	○		Speaking Skills II B	レベル別クラスでよりスムーズな日常英会話の運用ならびに多岐にわたる場面での英会話力の養成を目指す	2後	60		△	○		○		○	○	
33	○		Speech	2年間の英語学習の集大成として、各自の問題意識、関心のあるテーマについてリサーチを行った内容を英語でスピーチとして発表する	2前	60		△	○		○		○		
34	○		Graduation Report	スピーチに関連したテーマについて、英語での論文作成を行い、まとめた内容について英語でプレゼンテーションをする。	2後	60		△	○		○		○		

(文化教養専門課程 海外ビジネス科) 令和4年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
35	○			Intensive Writing	企業で日常的に使用する英語のビジネス文書（計画書や企画書、報告書、履歴書、電子メールなど）の作成、および英語による海外取引全般に関する内容が理解できる	2後	30		△	○		○		○	
36		○		英語検定対策 (TOEIC) II A *G	レベル別クラスにてTOEICの高スコア取得のための対策授業を行う	2前	60		○	△		○		○	
37		○		英語検定対策 (2級) II A *G	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主催実用英語技能検定」の2級取得のための対策授業を行う	2前	60		○	△		○		○	
38		○		英語検定対策 (準2級) II A *G	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主催実用英語技能検定」の準2級取得のための対策授業を行う	2前	60		○	△		○		○	
39	○			英語検定対策 (TOEIC) II B *H	レベル別クラスにてTOEICの高スコア取得のための対策授業を行う	2後	60		○	△		○		○	
40	○			英語検定対策 (2級) II B *H	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主催実用英語技能検定」の2級取得のための対策授業を行う	2後	60		○	△		○		○	
41	○			英語検定対策 (準2級) II B *H	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主催実用英語技能検定」の準2級取得のための対策授業を行う	2後	60		○	△		○		○	
42				総合英語 II A	英語のビジネス文書やニュースの記事を題材として、様々なタスクを通して英語の4技能（読む・聞く・話す・書く）を総合的に身につける。	2前	30		○	△		○		○	
43	○			総合英語 II B	ニュースに使われる語彙やフレーズを学び、時事英語や日常会話よりも早い英語に慣れ、より広い範囲の英語への適応力の養成を目指す	2後	30		○	△		○		○	
44	○			MOS演習 II	1年次の学びを基に実践的、実際の応用演習を総合的に行うとともに、「Microsoft Office Specialist Word」の取得を目指す	2前	60		△	○		○		○	
45	○			マーケティング	身近な分野の問題や改善点を捉えながら、外国人に接するエアラインやホテルの取り組みを参考に、マーケティング手法やツールを認識しながらワークショップを通して感覚を磨く	2後	30		△	○		○		○	○

(文化教養専門課程 海外ビジネス科) 令和4年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
46	○			プロジェクト ベースドラ ーニング	ホテルや航空会社等における実務例をベースに、現在のトレンドを踏まえてグループワークでプロジェクトを立ち上げ、内容のプレゼンテーションを行う	2 後	15		△	○		○		○	○	
47		○		韓国語会話A *I	韓国語基礎A、Bで習得した語彙や文法知識をもとに、会話練習を積むことでさらに運用力を高める	2 前	30		△	○		○			○	
48		○		中国語会話A *I	中国語基礎A、Bで習得した語彙や分法知識をもとに、会話練習を積むことでさらに運用力を高める	2 前	30		△	○		○			○	
49		○		韓国語会話B *J	韓国語基礎A、Bで習得した語彙や文法知識をもとに、会話練習を積むことでさらに運用力を高める	2 後	30		△	○		○			○	
50		○		中国語会話B *J	中国語基礎A、Bで習得した語彙や分法知識をもとに、会話練習を積むことでさらに運用力を高める	2 後	30		△	○		○			○	
51		○		観光業界実務 *E	ホテル、トラベル、航空の各業界の業務について実践を交え、より具体的に学ぶ	2 前	30		△	○		○			○	
52		○		貿易概論 *F	貿易の流れを学びながら、貿易業務で 사용되는語彙、フレーズを習得する	2 前	30		△	○		○			○	
53	○			ビジネス実務	名刺の渡し方やお茶出しなどの、社会人として求められるマナーを実践的に身に付ける	2 前	30		△	○		○		○		
54	○			一般教養 A	時事教養や基本的教養を基に、SPI試験、適性試験などの問題に対応できるようになる	2 前	30		○			○			○	
55	○			一般教養 B	一般教養 Aに引き続き、時事教養や基本的教養を基に、SPI試験、適性試験などの問題に対応できるようになる	2 後	15		○			○			○	
56	○			GCB II	著名人や偉人の人生や教訓を通して、「志」を学ぶ	2 前	15		○	△		○		○		
57	○			社会教養 II A	会社訪問や面接試験を受ける際の事前準備、訪問・面接試験後の振り返りと反省をし、就職試験に向けての準備を行う	2 前	45		△	○		○		○		

(文化教養専門課程 海外ビジネス科) 令和4年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
58	○			社会教養ⅡB	比較的身近な話題に関するインタラクティブディベートの活動を通して発信力や傾聴の姿勢を育てる。裁判所見学、博物館見学などのアクティブラーニングを通して、社会文化的な教養を身につける	2後	30		△	○		○		○		
合計							58	科目	2665			単位時間				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>卒業要件は次のとおりである。</p> <p>(1) 当該学科の修業年限以上在学していること</p> <p>(2) 学則に定める当該学科所定の全ての科目に対し履修認定を受けていること</p> <p>(3) 卒業基準検定を取得していること</p> <p>(4) 学年の出席率が90%以上であること</p> <p>以上の要件に該当しない者は、卒業判定会議により判定を行う。</p>	1学年の学期区分	2期
<p>履修方法：</p> <p>学則に定める教育課程に基づき、全ての必修科目及び選択必修科目の中から指定された授業時間数の科目を履修すること。選択必修科目は、*A・*B・*C・*D・*E・*F・*G・*H・*I・*Jの区分それぞれから各コースで定める科目を選択して履修すること。</p>	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合には、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。